

# 会報 第9号

# Beyond the Horizon



発行：宮古市国際交流協会 宮古市宮町一丁目1-80  
Tel: 0193-62-3534 Fax: 0193-62-7030  
Mail: info@miyako-kokusai.com

Homepage: www.miyako-kokusai.com  
Facebook: www.facebook.com/miyako.international  
多文化共生ラジオ: 毎週水曜日午後6時半～



## ナミビア料理 講習会

今年の秋に日本で開  
催されるラグビーワー  
ルドカップ2019で  
は、宮古市はフィジー  
とナミビアの公認チー  
ムキャンプ地に選ばれ  
ています。  
日本在住のナミビア  
人はわずか18名（2  
018年法務省調べ）

ですが、そのうちのお  
一人が、宮古市に約2  
0年前からお住まいの  
佐々木フレデリカ（ア  
ニータ）さんです。ナ  
ミビア大使館によると、  
日本人と結婚して日本  
に定住しているナミビ  
ア人は、アニータさん  
一人だけということだ  
す。  
そのアニータさんを  
講師にお迎えして、7  
月7日にフラットピア  
みやこで、ナミビアの  
食、歴史、文化を学ぶ  
ための「ナミビア料理  
講習会」を開催しまし  
た。市内外から22名  
の方が参加してくださ  
いました。  
料理を始める前に、  
アニータさんからナミ



ラグビーワールドカップについて説明する盛合さん

ビアについて教えてい  
ただきました。199  
0年に南アフリカから  
独立した若い国である  
こと、国民の約8割が  
黒人で2割が白人であ  
ること、アフリカの中  
では政治も治安も安定  
した国であること、子  
供の頃は家ではアフリ  
カーンス語を話し、学  
校で英語を学んだこと  
などを教えていただき  
ました。  
その後で、教育委員  
会の盛合さんから、ラ  
グビーワールドカップ  
について説明してい  
ただきました。ナミビア  
は10月13日に釜石  
鶴住居復興スタジアム  
でカナダと対戦しま  
すが、両国が入ってい  
るプールBは強豪国が集

カタツムリの形をしたブルボスソーセージ

今回作った3種類の料理



まっているの、対してパップは白色です。ナミビア対カナダの試合は、なんと一勝を挙げたいというプライドを掛けた、非常に力のこもった熱い試合になりそうだというお話でした。

今回の講習会では、ナミビアの代表的な料理である、パップ&ボス、シュニッツェル、ベイクドビーンズサラダの3品を作りました。

パップは、トウモロコシの粉をお湯で練りながら炊く料理で、ナミビアでは主食として食べられています。イタリア料理のポレンタに似ていますが、ポレンタが黄色なのに、対してパップは白色です。このパップを付け合わせに、カタツムリの形をしたソーセージの「ブルボス」を焼いてお皿に盛りつけました。ハーブの香り豊かなこのブルボスソーセージは、ナミビアの隣国である南アフリカでもよく食べられるそうです。今回の講習会のために、名古屋にある専門店から取り寄せました。

シュニッツェルは、塩とレモンだけで味付けをして、少量のバターとサラダ油で焼いた、カツレツに似た料理です。レモンの爽やかさとバターの豊かな風味が特徴的な、とてもおいしい料理です。最後の一品は、ベイクドビーンズの缶詰に、みじん切りにしたピーマン、赤パプリカ、唐辛子を加えて混ぜたサラダです。ベイクドビーンズはナミビアでよく食べられていて、パンに付けて食べたりもするそうです。

東京などの大都市でもなかなか食べることで、きかない本格的なナミビア料理を、参加者の皆さんはじっくりと味わいながら召し上がっていました。ラグビーワールドカップ開催中は、ナミビアとフィジーをはじめ、世界

各国から大勢の外国人が宮古を訪れることが予想されています。宮古での滞在を楽しんでいただけるよう、温かいおもてなしへのご協力をお願いします。



講習会の後でテレビ局のインタビューに答えるアニータさん

# Welcome, Princess !

今年の春に、2隻の外国客船が相次いで宮古港に入港しました。

4月25日には、乗客乗組員合わせて4,000人近くを乗せた、ダイヤモンド・プリンセスが入港しました。10万トンを超える大型客船が岩手県内の港に寄港するのは、今回が初めてでした。

大勢の外国人のお客様に対応するため、市内在住の通訳スタッフ、ボランティアに加えて、岩手県内各地からも大勢の通訳の皆さんが駆けつけてくださいました。

また、市内の中学生、高校生、そして市内外の大学生もボランティアとしてお手伝いしてくださっていました。

5月8日のスター・レジェンドの3度目の寄港の際にも大勢の通訳スタッフ・ボランティアの皆さんに尽力していただきました。

スター・レジェンドに乗っていらしたアメリカ人のご夫妻は、「昨年の秋にも同じクルーズに参加して宮古に立ち寄りしました。宮古でもとても素晴らしい経験をしました。また戻って来られてうれしいです」と話してくださいました。

ボランティアの生徒たちは、外国人のお客様の案内や、お名前を漢字に直して毛筆で短冊に書くサービス、着物の着付けサービスなどで大活躍してくれました。今までに何回も客船ボランティアに参加したことがある高校生は、「ボランティアの回数を重ねるにつれて、英語で対応することに慣れてきました。ダイヤモンド・プリンセスの時よりも外国人のお客様の数は少ないですが、その分一人ひとりのお客様とたくさん英語で話しています」と語ってくれました。

高校生の大部分にとって、外国人と話をする機会はそれまであまり多くなかったはずですが、経験を重ねることで、外国人に対する戸惑いや恥ずかしさを脱ぎ捨て、自信をもって堂々と対応する姿が、とてもまぶしく見えました。

外国客船の寄港に関しては経済効果が注目されますが、若い人たちが外の世界に目を向け、国際的な感覚を身に付けるための、とても重要なきっかけにもなっているのではないのでしょうか。



宮古駅前での通訳スタッフの様子



藤原埠頭で外国人観光客に対応する高校生

# にほんご スピーチコンテスト

3月3日に、イーストピアみやこで「にほんごスピーチコンテスト」を初めて開催しました。在住外国人の皆さんが日本語学習の成果を発表する場を作り、学習意欲を高めていただくことを目的に開催したものです。

出場したのは、市内の小学校、中学校、高校で英語を教えているアメリカ人4人、山田町豊間根で技能実習中のインドネシア人4人、そして盛岡大学に交換留学中の中国人1人でした。

最優秀賞を獲得したのは、インドネシア人のトニさんでした。日本に来て水道水が普通に飲めることに驚いたことや、日本の演歌への熱い思いを語った後、大好きな「酒よ」を熱唱しました。

他の出場者の皆さんも、

パワーポイントで写真を紹介したり、歌をうたったり、身振り手振りを加えたりと、とても工夫を凝らしていました。出場者の皆さんの堂々とした熱い内容のスピーチに、会場は次第に熱気に包まれていきました。

このスピーチコンテストに出るために、皆さんは日本語教室さくらで何度も練習を重ねてきました。コンテストの後、参加した皆さんからは、緊張したが良い経験になったという声がかれました。



出場者、観覧者、審査員の集合写真



インドネシア人技能実習生と、宮古市国際交流協会の山口理事

## ラグビーワールドカップ2019 情報

◎会場：釜石鵜住居復興スタジアム

※試合当日は自家用車でスタジアムまで行くことはできません。ライナーバス（要予約）、パーク&ライド（要予約）、三陸鉄道をご利用ください。

◎試合日程

9月25日（水） フィジー  対  ウルグアイ

10月13日（日） ナミビア  対  カナダ